

体験版 かおりのお仕置きママ

第一章「桃色の夏期講習」

かおりは夏休み最初の夏期講習をサボり
部屋で最新の RPG ゲームをしていた

「かおり～、今日子さんがお見えよ～」

あっ！お母さん・・・留守って言って～

な～にが、留守なの？かおり・・・

<すでに今日子のかおりの部屋の前に立っていた>

「せつ、先輩・・・どうしたの？」

どうしたの？じゃないわよっ
今日の夏期講習へ来なかったんだって～
あなたのクラスメートの・・・ほらあ
なんだったけ？川上君から聞いたわよっ！
期末テストの成績が悪かったんだから
ちゃんとお勉強しなければ駄目じゃないの～

「うん・・・でも今日はちょっと生理で・・・」

ふ～ん、かおりは生理なのにプールへ
行ったんだ～？あそこに干してある
スクール水着は何かしらね～、ええ！

「あ、あれは・・・昨日。。」

ちょっと待ってなさい、今調べて来るから

<今日子は窓際へかおりが干してあった
紺色のスクール水着を手にとった>

へ～、昨日からここに、干してあった割りに、
この水着・・・随分と湿っぽいわね～、
もうこれで、言い訳は聞かないわねっ！
か・お・りちゃんっ　メ！よっ
お姉ちゃんに嘘をついたら、どうなるか？
もう、忘れた訳じゃあないでしょっ！
また、お仕置きかしらね～。

「お姉た～ん、今、ママがいるんだよ～
お仕置きだったら、今度、受けるから・・・ねっ！」

(まったく甘えた声を出して。)

あら～？そんな事はかおりは心配しなくて
良いのよ～、あなたのママはさっき
おぼさんの所へ出かけるって言ってたわよお
それに・・・かおりが悪い子の時はうんと
「叱ってあげてね！」って言われたばかりよっ

直接、お母さんにね！

一人っ子だから、我俣に育ってしまっ
私みたいなお姉さんがいたら本当に良かったのに～
・・・とも、言っていたわよ。

これからは、お母さん公認のお仕置きですからね～
どんなに、お尻ペンペンの音が下の階へ聞こえても
かおりがどんなに泣いても、ぜ～ん、ぜんっ
気にしなくて良いわね～。

「そ、そんな～」

丁度良いわ、この水着に着替えなさいっ
もちろん、スクール水着の下にパンツを履いちゃだめ！

広●涼子似だった、今日子は普段、
かおりに対してはとても優しく、

時折、まるで赤ちゃんに話しかけるように、
かおりに接してくれていた・・・
しかし、いざ、お仕置きとなった時には
本当のママよりも、数倍厳しかったのである

「今・・・？ここで？お着替えするの～
や～そんなの、いくらお姉ちゃんの前でも
恥ずかしいよ～、堪忍してよお～っ」

かおりちゃん？何が恥ずかしいって言うのお
いつもお姉さんのお膝の上でお尻をまる出しにして
私からペンペンされてるじゃないの～
それとも、お着替えを手伝って欲しいから甘えてるのかしら・・・

「ち、ちがうよ～・・・ごめんなさい」

そう、そう、素直にしくちゃね～
お仕置きが辛くなるだけよ～
1分だけ、待ってあげるから直ぐに着替えなさい！

<かおりは慌てて、着ていた服を脱ぎ捨て
干してあった、スクール水着に足を通した>

「ああ～、まだ湿ってる～気持ち悪いよ～」

そ～んな、気持ち悪さはお姉さんのお尻叩きで
直ぐに気にならなくなるわよ～
ほらあ、着替えたら、お膝でしょう？

「ば、パンツ履いてないから、あんまり
痛くしないでねっ、お願い・・・」

いいから、いらっしやい！本当にママの言う通りね！
我儘なんだからあ。うんと、ペンペンしてあげようね？

かおりはこれ以上逆らったら本当に
今日子を怒らせてしまうと思い、彼女の膝へ

ビクビクしながらうつ伏せになった・・

あら？ほんとに湿ってるわねっ？この水着・・でも
お尻をうんと、熱くしてあげたら乾くかもしれないね！

うふふ、どれどれえ～？

今日はどんな悪い子だったか？姉さんに言ってご覧なさい
っ！

いつも、お膝に乗ったら直ぐに言うんでしょ！

ばちい～ん。

<今日子は比較的、軽めにお尻を叩いた>

「ふんにゃ～、痛いよ～」

何をいってるの？まだお仕置きは始まってません！
どんな悪い子だったか？聞いているのよ！お説教中よっ

「わ～ん、ごめんなさあ～いっ！
もうしません、もうしません！」

わからない子ねっ、少しペンペンしてから
もう一度聞こうかしらね～これじゃあ、何時までたっても
お尻ぺんぺんを始められないじゃあないのっ
湿ったスクール水着をお膝へ乗せてる、お姉ちゃんの身にも
なりさい。

「だって～、お姉ちゃんが着ろって・・」

言ったわね！そんな生意気な口は、あとで猿ぐつわだから
ね！！

「それだけは、堪忍して～！！」

かおりは今日子のお仕置きで猿ぐつわをはめた時は
特に厳しいお仕置きになる事を覚えていた・・

だったら、言いなさい！

「はい、きよおおお～・・・かおりわあ～、
夏期講習をサボってお友達とプールに行きました・・・」

ぱ～ん！ぱん！！

<テニス部のキャプテンだった今日子の強烈なスナップが効いた
平手が少し湿ったかおりのお尻へ叩きつけられた！>

それだけじゃないでしょ！

「うえ～ん、お尻があ～ああ～とつてもお～、
いたいおお～、それだけだもん～！！」

そ～おお？お尻に聞いて見ようね～
さっ！しっかりとお姉ちゃんのお膝に掴まるのよ！

「ひっいいいい～、怖いよお～ん」

怖いんじゃないくて・・・痛いよ！

ぱん！ぱん！バチン！ばし～ん！！
ぱ～あん！「きゃ～ああ～、おしりがあ～」

動かない！ぱん！バチン！ばちい！
水着が邪魔ね！ぱん！ぱん！

<今日子のかおりの水着のお尻の部分だけが見えるよう
Tバックのようにぐいっと、水着の両端を引っ張りあげた>

「痛い～、お尻の穴があ～、裂けちゃう～」

いちいち、わめくんじゃないの！これからが本番よ！

パチン！べち！ばしい～ん！

「ふんぎゃあ～、ゆるちてえ～！かおりが悪い子でしたあ～」

百回ごめんなさい、言うまで許しませんっ！

悪い子！ぱん！悪い子！！ぱちん！もっと痛い、痛いだから
ね～

ぱん！ぱ～ん！！パチ！バシン

「ごめんなさい！ごめんなさい！！

ごめんなさあ～あああ～い！！！」

ぱん。ぱん、ぱん・・・

<今日日は次第にかおりのお尻叩きの強さを弱めていった>

かおり・・・良い子になれたかな？ペンペンで反省できたかな？

「ひっ、ひっ、お、おねえ、おねえた～ん

ご、ごめんな、さ、い、もうしません。。」

そう・・・良い子ね抱っこしてあげようね～

よち、よち、もうお姉さんに嘘をつかないのよ～、わかつた。。？

「ふあい・・・お尻、痛かったよ～」

第2章 「スパンキングインスピレーション」

今年の春、かおりは中学から大学まで一環教育をしている
神奈川のとある学園の〇等部へと入学した、大学だけは
共学だったが、中学、高校は女子生徒だけ受け入れていた
学園だった。一人っ子だった、かおりを心配してか？
両親は一切男性との付き合いは認めずそれどころか、小学生時
代も
誰一人として男の子は、家に招かなかった。

そんな、かおりが小さい頃から慕っていたのは、隣に住んでいた。千佳子という女の子、かおりとは4つ年上だった為に○学生の際は、一緒に登校していたが同じ学園でありながら、当然、かおりが○学へ入学したと同時に千佳子は○校へ進学するので、今ではたまに一緒にバスに乗る程度になっていた。

「かおりい～、どう？○学生生活は・・・お友達は出来たのかしらあ？」

今日は、たまたま同じバスに乗り合わせた千佳子がかおりに話しかけてきた

あつ、おはよ！千佳姉っ、うん
結構楽しいよお～、お勉強は少しだけ
難しくなったけどねえ～

かおりは、千佳子（ちかこ）と小さい頃から実の姉のように育てていたせいか、千佳子の事を千佳姉さんとか、千佳ねえっていつしか呼ぶようになっていた。

「そっかあ、確かに○学時代と比べたらお勉強する教科も増えるし、クラブ活動も頑張らないといけないものね～？」

しっかり、やらないと直ぐに落ちこぼれになっちゃうからね！お勉強で分からない事があったら、いつでも姉さんに相談する事っ！

良いわね～・・・ああ、そういえばもう直ぐ期末テストでしょう？。。

今夜からちょっとお勉強を見てあげましょうか～？」お姉ちゃんが・・・

千佳子と長い付き合いだった、かおりはたまに、本当の姉の様な態度の彼女の事がうっとうしく思えた時があった

「平気！平気っ！ああ、もう駅だよっ降りないと・・・
それじゃあ千佳ねえさんいってきまあ～すう！！」

(やれ、やれ・・・どうしてかおりはいつもお勉強のお話になると

逃げちゃうのかしらね？同じ、学園へ登校してるんだから、
一緒に行けばいいのに・・・

よ～し、今夜は抜き打ちで、様子を見に行っておあげようっ！)

かおりの両親は千佳子だけは、どんなに夜中だろうが
朝早くだろうが、いつでも家にいたのだった・・・

というよりも家族ぐるみの付き合いで、しょっちゅう
千佳子は晩御飯を食べにきたり、お風呂も、貰いに来ていた
かおりの両親が海外出張が多かった為か？

その度、娘を千佳子の家に預ける機会も結構あったし
また、反対に千佳子の家で何かあれば彼女を預かったりも
していたのだった。そんな、かおりの両親はある程度の娘の躰
を

千佳子に委ねている面も・・・

その日の学校帰り、千佳子は自宅にも
帰らず、真っ直ぐかおりの家へと向かった

(ふう、朝はやばかったなあ・・・千佳ねえが家庭教師をやるっ
て

言ったときは、あせったあ～あっ、あ～んなスパルタの先生に
教わったら

ゲームをやる時間もなくなってしまうじゃない・・・あれ？

なんか・・・嫌な予感がしてきたあ今・・・玄関に誰か来な
かったかなあ)

玄関で・・・

「あらまあ！千佳子ちゃん？久しぶりじゃなあい、
今、帰り～？よかったら家でご飯食べて行ったらあ？」

はいっ、今朝ちょうどかおりとバスが一緒になって・・・それで

最近はおばさんとこも出張が少なくなったので、あんまり
かおりとゆっくりお話する時間もなくなったなあって・・・
今日はそれで・・・寄らせてもらったんです。

「そうよねえ？以前は本当にうちの娘の面倒を見てくれてた
ものねえ
これから、私達でかけるんだけどかおりも一人では心細いだろ
うから
たまには、泊まって行ったらっ？あなたのお母さんには、私か
らあとで
言うておくから、ねっ！そうしたら？」

それじゃあ、お言葉に甘えて・・・そうしようかな？ちょっと着
替えて
から、もう一度出直してきますから、あっ！それと・・・
今夜私が来る事はかおりには、内緒にしておいてくれます？
びっくりさせたくて・・・鍵は、いつものところですよ？

「わかったわあ、かおりも喜ぶわあ！私達、明日の夜、
一度家に戻ってから数日間、海外出張だから・・・その時も
また、お願い出来るかしらあ～」

ああ、全然大丈夫ですよ～！どうぞ、ご心配なくお仕事に専念
して
下さいねっ、それにかおりの勉強もちよっと見てあげたかった
ので・・・

「助かるわあ、でもあんまり甘やかさないでねっ、実のお姉ち
ゃん
だと思って、叱る時はうんと厳しく叱ってあげて下さいなっ」

はいっ！でわ、またあとで参ります・・・

千佳子は、一旦家に戻り軽くシャワーを浴びてから、
かおりのご両親が出かけたのを見計らって、
再度かおりの家を訪問しようとしていた・・・

(かおりったら、朝、テストの話をしようとした時に、
なんだかそわそわしてたわねえ・・・もし？ここんとこ
たるんでいたら、しっかりさせなきゃね！
そうだわあ。念のためにお仕置きセットを持って行こうかしら、
あの子・・・この小さいバックをみただけで○学校の頃は私の前
で
震えていたもんね～、まあ・・・でもそんなところが、
とっても可愛いとこなんだけどね・・・うふふっ。)

千佳子は以前から、かおりを叱る度に少しずつだが、
お仕置き用のお道具を増やしていった

(え～っと、お仕置きセットは揃ってるかしら～、
物差しでしょう、お灸に洗濯ばさみ、そうそう
私の、お手製のパドルも入ってるかしらあ？
あとはブラシね！このボディブラシはお風呂での
お仕置きで便利ね！体も洗ってあげられるしね～)

千佳子はそんな独り言を言いながら
お仕置きセットの確認して笑みを浮かべた。

「さあて。そろそろ、行こうかしら！」

かおりの家の玄関・・・

(えっと、確かあ・・・あっここね！ホンと！おばさんったら、
何年も同じ場所に鍵を隠しておくんだから無用心ね・・・ふふっ、
あの子わあ・・・2階ねっ！そっ行って驚かせてやろうっ)

千佳子は2階にいる、かおりに気づかれないよう
そっと玄関の鍵を開けた・・・

(あらあ？お勉強してる割には2階が騒がしいわね？・・・まっ
あの子が静かに、お勉強してる訳がないかつ、金曜の夜だしね
っ・・・)

千佳子は忍び足で階段を上り、かおりの部屋の前へ
辿り着くと、そっと、ドアの隙間から中を覗き込んだ・・

(ふ～う、やっぱりねえ・・)

<千佳子はバンッと、ドアを開けた>

「ああっ！ち、ちかねえ・・」

ふ～ん、かおりのお勉強ってパソコンを使うんだあ～？
しかも・・そんなだらしない格好をしてえ・・

「あう・・今・・休憩中・・なの・・
でも、なんで？今日来るって言ってた？」

どうして？あなたの家に来るのにいちいちアポイントを取ら
ないと
いけないのよお～、今までそんな事を一度もした事はないわよ
お～

「それは・・そうだけど・・」

いつまで、そんな格好で寝そべってるのっ！そこへ、お座りな
さいっ・・

<千佳子は、きりっとした口調でかおりに言った>

「お、お姉ちゃん？もしかして怒ってるの？なんか機嫌悪そう
だけど・・」

当たり前じゃないっ！お母さん達が出かけたとたんになんかそん
な・・
パンツ一枚で寝そべって、しかも何？そのエッチそうなゲーム
はあ？

「これ・・ただのRPGだよ～」

知ってます！そんな事っあなた、私を馬鹿にしてる？
それから・・・今夜はお姉ちゃんではないからね！ママよっ！

「ママって・・・もしかして・・・」

かおりは小さい頃から、引っ込みじあんで
お友達が少なかった事もあり、ほとんど千佳子に遊んでもらっ
ていた

女の子なら誰でも一度は経験がある、おままごと千佳子とだ
った

当然ママ役は年上だった千佳子で、赤ちゃん役はかおり・・・
いつしか、かなりリアルなおままごとに発展して行って、
〇学3年の頃からだったか？本当におままごと中に
千佳子ママにお仕置きをされるようになっていったのだっ
た・・・

おままごとはもちろん、ただのお遊びだったが、千佳子は
リアルにかおりが悪い子だった時の事をおままごとの材料に
して、

かおりをまるで自分の赤ん坊のようにお膝の上に乗せて
お尻を叩く事も・・・かおりにとって千佳子がママになるって
言った言葉で連増される記憶はお仕置きでしかなかった・・・

（最近お仕置きが遠のいていたせいか直ぐに正座も
できなくなったのねえ・・・ママは本当に悲しいわあ）

かおりが千佳子に対し、ママっと思えるように、また、
千佳子も自分でママっと言った時点から気持ちも
本物のママに変化するようになっていた

せ・い・ざって聞こえなかった？

「は・・・いっ。お姉ちゃん・・・」

ママでしょう！さっさと座るの！

<千佳子がかおりを正座させると自分も彼女の目の前に正座

した>

いいっ？かおり・・暫くお父さんとお母さんがまた海外出張に出かけるからその間は、毎日私がここへお泊りしますからね～その間は、私はあなたのママよっもしも？お姉ちゃんって今度私の事を呼んだりしたら1回につきお尻30よっ！

もちろん、その場でペンペン！ご飯中でも、お風呂でもたとえあなたがテレビを見てる時もよっ！わかりましたか？

「ええ～！！そ、そんなあ・・」

ぴしゃん！

<千佳子がかおりの正座していた目の前の左の太腿を叩いた>

「ああんっ、」まだ、お話は終わってませんよ

「ふえ～ん・・」ピシャン！！

ふええ～ん、じゃあ、ありませんっ！

はい・・でしょう？「だってえ、痛いんだもん・・」

当たり前です！かおりはもう小さい赤ちゃん役ではないのよっ

ママがペン！ってする時も優しくはありませんからね～

お・へ・ん・じ・・は？「は、はい・・」ピシ！

はい、ママでしょう！ちょっと待ちなさい・・

<千佳子はお仕置きセットのバックをかおりの前に出しそこから50センチくらいの竹の物差しを取り出した>

先ず、お返事がきちんとできる良い子になれるようにかおりを小さい子として躑躅してあげますからね！いいわね？

「.....」また、叩かれない？

「嫌だあ〜！そのバックう〜これから良い子になりますから
それだけは、出さないで〜！お願いだからあああ・・・ああ！」

あれえ？ちゃんとこれだけは覚えていたのね？良い子ねえ
ママもこれは、あんまり使いたくなかったんだけど・・・
かおりは、小さい頃からこのバックのおかげで良い子に
なれたんですからねえ？でも・・・最近ちょっと、お仕置きが
遠のいてるせいか？とっても悪い子になった見たいねっ！
今夜はかおりの本当のお母さんからもしっかりとあなたの躰
を
頼まれていますからねっ！徹底的に躰直してあげますよっ
でも、まさかお返事の仕方から躰けなければいけないなんて
ママも思っても見なかったわよお

「お返事くらい、出来るもん・・・」

<千佳子は物差しを振り上げた>

「はい、はい！はい〜！お返事ちゃんとしますからあ！
願いい〜、そんなので、ぶたないでっ！」

お返事は一回でいいのッ！わかった？

「はい、ママ・・・」

そうそう、やれば出来るじゃないっ
さて・・・それではお部屋でそ〜んな、はしたない格好を
していたお仕置きからはじめましょうかね？
お風呂とご飯はそのあとでよはやくご飯を食べたかったら
ママのお仕置きを良い子で受ける事っ。まずはパンツを脱いで
正座し直しなさいっ

「あああ〜、恥ずかしいよ〜もう、子供じゃ
ないんだからあお仕置きもパンツの上からが・・・」

ピシ！ピシ！<続けざまに太腿を物さしで叩いた>

「ひっ～、あ、赤くなってきたあ！」

まだ赤いうちは・・・いいわねえ～

言ってる意味・・・わかるよね？

お尻も太腿も赤く腫れる位にしておきなさい・・・

「わ、わかったよお～、ひ～んお姉ちゃんの馬鹿あ～ああ」

そういう態度ね？よ～くわかったわあ・・・

今のお姉ちゃんって言ったので30回、ふて腐れた態度で30回

私に向かって馬鹿って言った事で40回、今だけで100回になったわよ～、お尻ペンペン・・・そうね～、

平手でのお仕置きだけではママの手が持たないから

今の100回は、物差しと布団叩きを混ぜて・・・50回に減らしてあげるわ

あなたもそのほうが時間が短くて済むからいいでしょう・・・？

「ごめんなさあ～あ！！い！！ママ、ママ、もう二度と悪い言葉を

使いませんから、い、今からにして下さ～いっ、お願い～！

うわあ～ん！わん、わ～ん！うえ～んん、えん、えんえん・・・」

まだ、お仕置きもしてないのに泣くんじゃありません！

「うえ～ん！！」

直ぐに泣き止めば、お膝の上で平手打ち30回にしてあげるわっ

「ひんっ、ひっ、わ、わ、は・・・い、ママ・・・ごめんなさいっ」

わかったのね？では、パンツ・・・

「はい・・・ママ・・・」

<かおりは観念してゆっくりと下着を脱ぎ出した>

は～いっ、そこへ正座なさい・・・

「はい、ママ」

良い子ね～、かおりたんわぁ・・・

こうやって素直にしたらどンドン、お仕置きが軽くなるわよ～、
でも・・・今回だけですからね！最初からのカウントはぁ

これからは、一切おまけはなし！あなたがどんなに悲願しても
決まった数のお仕置きは絶対にママ・・・しますからねっ
それに、お道具を決めるのもママよ！

<千佳子のかおりの頭をくしゃっと撫でた>

「ふんみゃ・・・あっ、はい・・・ママ！」

危なかったわね～、まぁ・・・いいわっそれじゃあ、
どうして？そんな格好をしたの？言ってご覧なさいっ

「ど、どんなって？」

パンツ一枚で寝そべっていた事！

もう、忘れたのかしら？これで、思い出す？

<再び、千佳子は物差しを手にした>

「わぁ！言いますっ、言いますっ楽だったから・・・
あと、直ぐにお風呂には入ろうって思ったから・・・」

嘘おっしやい！、あなたがいつも何時に

お風呂に入るか？ぐらいはママ知ってるのよっ！

あっ！そうだぁ！ママに嘘をついたら問答無用で布団叩き5
回よ！

それも、布団叩きのお仕置きの場合はよつんばいで、思いっき
りね！

今の分は、明日の午前中にするからねっ

「嘘じゃないもん〜！」

はい、10回！

「ひっ〜、ママあ〜、どうしたらいいのよ〜！どんどん増えちゃうよ〜」

わからないのっ！嘘を言っても、直に正直にママに謝れば良いのっ

そのくらいもわからない？そうすれば、もしかしたら・・・

だけど・・・

1回や2回はお仕置きが減るかもね〜
平手のペンペンだって5回は減らしてあげてよっ。

(どっちにしても叩かれるんじゃない！)

<かおるは口をとんがらせた>

か・お・る？あなた私と何年付き合ってると思ってるのお〜、
あなたがそんな顔をしてる時に何を考えてるか？くらい私には
お見通しなのよ〜

「ああ〜ん、ママあ〜ごめんなさいっ、ごめんなさい〜！」

お膝に来なさい・・・

「はい・・・」

「ひう、ママ・・・ペンペンでかおり。。良い子になる・・・」

はい、良い子になろうねえ・・・
まずは、お手手でお尻ペンペンからよ〜、
もし？これで反省ができたのなら、お手手だけのお仕置きで

今夜はおしまいにしてあげますからねえ～、わかったあ？

「怖いよお～、痛い・・・？」

痛いに決まってるでしょ！いつまでも甘えてるんでは
ありませんっ！お仕置きです！

ぱちん！ぱちい～！「はう、うう！あっ！」

ぱん！バチン！このお尻！真っ赤にしてあげるからねえ！

ぱん！ぱんっ、ばしい！

「ふんぎゃあ～！ああ～おままごとの
お仕置きが良いよお～！痛あいつ！ひう～！かんに～んっ」

泣いてばかりじゃあ、ママの
お仕置きは終わりませんからねえ

ぱん！ぱん、ぱん。お膝から逃げるんじゃないのっ！
わからない子ねっ！ぱん！ぱあん！もっと
強くお尻を叩こうねえ～？

「いやあ～！もうだめえ～！ああ～ん、いたいよお～おお
～！！」

だからっ、泣いても駄目って、何度言わせるのっ！

悪い子は、だあれっ！

ぱちい～んんん！！

<スナップを効かせた spanking はかおりを思い切り仰け
反らせた>

「悪い子っ！わるいこお～！かおりが悪い子なのお～！！
まんまあ～、お尻許してえ～～え！！」

本当に悪い子って思ってるのお？

「うああ～ん！、思ってますう～だから、だから、もう痛いのはやあ～」

まあだ、まあだ・・お仕置きが足りない見たいねえ？
そんなにしっかりお話ができるんですものねえ？本当に反省してたら
涙で声も出ない筈でしょっ！ねえ？そうでしょう！！物差しで、
お仕置きするからママのお膝の上で四つんばいになりなさい・・・

<かおりにはすでに逆らう気力もなかった>

はあ～いつ、そうよお～、
お尻が天井に向く位に突き出すのよお～
お手手は前で揃えてねえ

<今日子は物差しを畳で試し打ちした>

パシ！パシ！パシ！

さっ！この物差しとかおりのお尻と、
どちらが強いかしらね？
この竹が割れたら、お尻の勝ちね！

「そ、そ、そんなあ！！おままごとのママが良いよお～！
絶対に逆らわないからあ～お願～あいつ！！！」

かおりはこれから始まる今日子の物差しのお仕置きに
恐怖のあまり膝の上に涙をぼろぼろと落とした・・

<文中に乱筆があった事をお許し下さい>

体験版お仕置き小説は如何でしたか？本編では

お尻ペンペンファンが楽しめる、お仕置きメールや
音声版スパンキング小説「ルームメイト」など
永久保存しても良いかなあ〜って思える様な
コンテンツが満載です。是非あなたの宝物にして下さいね！

こちらはお仕置きメールの体験版です （抜粋）

こんにちわ！男の向けメールですよっ

「初めてののお膝」

%%name%%の部分をご自分のお名前にして
お楽しみ下さいね。スパンキー通信では
読者さまが登録された好きなお名前
毎週メールでお仕置きしています。

ずっと、ずっと前・・・
まだ%%name%%さんが小さかった頃、
初めてママに叱られながら
お膝でお尻ペンペンされた時の事って
覚えていますか？

普段とっても優しくママも
その時ばかりはすご〜く怖いママに変身？
・・・まるで別人の様だったでしょうねえ〜
でも、ママだって可愛い坊やお尻を
好き好んでパチンはしないものです。

%%name%%さんにとっても初めてののお仕置きなら
当然ママにとっても初めてののお仕置き・・・

今日はそんなお仕置き新人ママから
優しく厳しいお尻ペンペンを体験して下さいね〜

%%name%%ちゃん？

ちょっと聞くけど・・・
その、おもちゃは何時（いつ）？
買ってきたのお～？
それって・・・
500円位はしたわよねえ

ここまでがお仕置きメールのバックナンバーです
спанキー通信では基本的にバックナンバーは
非公開です、最近спанキー通信の「お仕置きメルマガ」へ
登録された方へもお勧めかも？

「ママのお仕置きは膝の上」管理人おくむらかんち

■ サイトアドレス

⇒ <http://xn--t8jg1hce67da3680ddrbu39u09e.com/>

購入前に何か？ご質問があればお気軽にメールしてね。

件名へ「ダウンロード商品について」

メール本文へはペンネームと
ご質問内容を書いて送信下さい
通常2日ほどでお返事致しますが
ご質問の内容によってはお時間
かかる場合がございます。

■ メールアドレス

⇒ kantiokumura@e-ml.mobi

本編アップロードまで暫くお待ち下さい
発売予定日は11月初旬です。
ウィッシュリストなどで、
お気に入り登録しておくと便利です。